

# 2025年度 事業報告書

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

# 2025 年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

## 1. 法人総括報告

26 回目の開催となる「CEATEC 2025」は、半数近くの出展が AI 関連となり、AI の社会実装を前提に多くの最新技術が披露された。

「Inter BEE 2025」は、61 回目の開催となり、2024 年に続き幕張メッセ会場とオンライン会場での開催となった。

引き続き、主催者である一般社団法人電子情報技術産業協会と緊密に連携しながら、リアルとオンラインを活用し、出展企業のビジネスへの貢献を図った。また、経済発展と社会課題の解決を両立する Society 5.0 を基軸とした共創の場として、関連産業のみならず関係省庁、国内外の関係団体と緊密に連携し、あらゆる産業、業種の人々や技術、情報が集い「共創」によって未来を描く、業界団体が主催する展示会ならではの企画、運営に努めた。

「CEATEC 2026」は開催に向け、2 月 5 日に開催概要説明会を実施し、2 月 12 日より出展申込受付を開始した。「Inter BEE 2026」は、Inter BEE 2026 実行委員会にて開催基本方針等を決定し、3 月 2 日より出展申込受付を開始し、3 月 19 日にオンライン説明会動画を配信した。

事務局運営では、オフィス勤務と在宅勤務を併用しながら効率よく業務を進めるとともに、更なる業務効率向上のため経年劣化している基幹業務処理システムの改善検討を行い、新システム導入の要件定義を策定した。

## 2. 協会運営事業実施報告

総会、理事会、運営役員会等の協会運営に関する重要事項を審議する会議は、書面審議、オンライン会議にて開催し、円滑に運営を行った。

### (1) 総会

- ①第 23 回通常総会（2025 年 6 月 11 日）を開催し、次の議案を決議した。
  - ・2024 年度事業報告及び決算報告承認の件
  - ・2025 年度事業計画及び収支予算承認の件
  - ・定款一部変更承認の件
  - ・役員選任の件

### (2) 理事会

- ①第 71 回理事会（書面）（2025 年 5 月 22 日）を開催し、次の提案事項を承認した。
  - ・2024 年度事業報告（案）承認の件
  - ・2024 年度決算報告（案）承認の件
  - ・定款一部変更（案）承認の件
  - ・役員選任（案）承認の件
  - ・第 23 回通常総会の実施承認の件
  - ・会員の退会及び会員数の報告（報告事項）
- ②第 72 回理事会（書面）（2025 年 6 月 11 日）を開催し、次の提案事項を承認した。
  - ・代表理事の選定
  - ・会長・副会長の役職役員の選定
- ③第 73 回理事会（書面）（2025 年 11 月 17 日）を開催し、次の提案事項を承認した。
  - ・会員の入退会の件
  - ・業務執行状況報告（報告事項）
- ④第 74 回理事会（書面）（2026 年 3 月 27 日）を開催し、次の提案事項を承認した。
  - ・2026 年度事業計画（案）承認の件

- ・2026年度収支予算（案）承認の件
- ・業務執行状況報告（報告事項）
- ・会員の退会及び会員数の報告（報告事項）

### (3) 運営役員会

- ①第65回運営役員会（2025年5月14日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
  - ・第71回理事会（書面）提案事項の件
  - ・第23回通常総会提案事項の件
  - ・第72回理事会（書面）提案事項の件
- ②第66回運営役員会（2025年11月4日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
  - ・第73回理事会（書面）提案事項の件
- ③第67回運営役員会（2026年3月13日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
  - ・第74回理事会（書面）提案事項の件

### (4) 事務局運営

基幹業務処理システムは、2026年4月より本格運用を目指し、開発を進めてきたが、業務運用とシステム運用の改善検討に想定以上に時間を要した。運用開始を2027年4月に改め、開発を行うこととした。

## 3. 展示会事業実施報告

### 3-1. 「CEATEC 2025」

#### (1) 開催内容

26回目の開催となるCEATEC 2025の開催テーマは「Innovation for All」とし、最先端技術の披露にとどまらず、テクノロジーが社会や暮らしにいかに関与するかを具体的に示すことで、人々の共感と参画を促し、イノベーションの社会実装を加速させる契機となることを目指し開催した。

CEATEC 2025には、4つの展示エリア（General Exhibits、パートナーズ&グローバルパーク、AX（AI Transformation）パーク、ネクストジェネレーションパーク）に810社/団体が出展した。特にスタートアップ/大学研究機関は、過去最多となる232社/団体が出展、次世代を担う幅広い出展者が集った。また、コンファレンスは、ピッチイベントなども含め、226セッションを展開した。

開催規模は、出展者数810社/団体（うち海外：29か国/地域より156社/団体）、開催期間中の登録来場者数は、合計で98,884名であった。

開催初日の10月14日（火）にパレスホテル東京にてオープニングレセプションを開催した。一般社団法人電子情報技術産業協会 漆間 啓 会長による主催者代表挨拶後、石破 茂 内閣総理大臣のビデオメッセージが上映され、会場にはご来賓として平 将明 デジタル大臣、古賀 友一郎 経済産業副大臣、川崎 ひでと 総務大臣政務官、一般社団法人日本経済団体連合会 東原 敏昭 審議員会副議長をお迎えし、ご祝辞を賜った。各社経営幹部、大使館関係者、官公庁関係者など、約700名にご参集いただき、参加者同士の懇親を図った。

また、CEATEC開催以来、初めて内閣総理大臣である石破 茂 総理に10月16日にご視察いただき、AIを活用したドライバーの運転技術分析・評価技術をはじめ、最先端の技術やサービスに触れていただいた。

#### (2) 収支報告

本年は810社/団体が出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は503,919,120円となった。それに対する事業費支出は412,487,037円、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替85,000,000円を加算した支出合計は497,487,037円となり、単年度収支差引は、6,432,083円となった。

前年度繰越金6,461,607円と本年の収支差引額の合計12,893,690円が、次年度繰越額となった。

(3) エリア構成

①General Exhibits :	Society 5.0 の実現に向け、AI が高度に導入された未来社会を見据えたテクノロジー、電子部品・デバイス、ソリューションやサービス全般のエリア
②パートナーズ&グローバルパーク :	独自テーマを設定し、あらゆる産業・業種のパートナーとともに Society 5.0 の未来社会を体現する「共創」エリアを展開するとともに、EU 各国 (12 か国) に加え、5 か国が出展し、最先端の技術や革新的なソリューションを発信
③AX パーク :	研究機関からスタートアップまで 33 社が集い、AI の最新技術と社会実装の取り組みを紹介。特設ステージでは生成 AI や産業 AI など幅広い分野のセッションを連日開催。展示とプレゼンテーションを通じて、AI の現在地と未来を体感できるエリア
④ネクストジェネレーションパーク (スタートアップ&ユニバーシティ) :	「次世代のイノベーションエコシステム」の実現に向けて、国内・海外の大企業/スタートアップ/支援者が価値創造するエリア
⑤コンファレンス :	リアルとオンラインで 226 の多彩なセッションを開催。幕張メッセ、国際会議場でのセッションに加えて展示会場内で 6 つのステージを展開

(4) CEATEC AWARD 2025

「Society 5.0」の実現を促し、新たな価値と市場の創造・発展に貢献、関係する産業の活性化に寄与することを目的として実施するもので、CEATEC AWARD 2025 審査委員会による厳正な審査により選出された。

①総務大臣賞

電子制御式フェーズドアレイアンテナ搭載  
小型・軽量 LEO 衛星向けユーザー端末試作機

シャープ株式会社

②経済産業大臣賞

“痛み”の共有による相互理解の深化を実現するプラットフォーム

株式会社 NTT ドコモ

③デジタル大臣賞

AI 時代の信頼できる音声入力を実現するマスク装着型デバイス  
mask voice clip

株式会社村田製作所

④部門賞

●イノベーション部門賞

・様々な素材をタッチパネルやスイッチに変える  
センサー/ZINNSIA(ジンシア)

株式会社ジャパンディスプレイ

・多言語同時通訳とマルチスポット再生技術

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)

・エッジ向けアナログリザバーAI チップを用いたリアルタイム  
学習機能付きセンサシステム

TDK 株式会社

・次世代 AI エージェント「Frontline Coordinator - Naivy」

株式会社日立製作所

・AI の進化に貢献する、環境配慮型チップオンウエハダイレクト  
接合技術の開発

ヤマハロボティクス株式会社/  
産業技術総合研究所/  
東京理科大学

・入浴中の心拍センシング

リンナイ株式会社

●ネクストジェネレーション部門賞

・触れて感じる、次世代の4D映像体験

TouchStar（東北大学事業化プロジェクト）  
 ロート製薬株式会社／株式会社フツパー

・リアラボ AI — 探索からラボ実験まで、研究の現場を動かす自律型 AI エージェント

●コ・クリエイション（共創）部門賞

・ビューティ&ヘルスケアを変革する、産業を越えた共創  
 —RNAで繋がる花王・アイスタイル・キリンによる未来創出—

RNA 共創コンソーシアム

●モビリティ部門賞

・フィーリング

Humonii（ジャパンモビリティショー 2025 スタートアップ出展者）

●グローバル部門

・Code Metal - Generate Verified, Hardware-Ready Code with Provable AI

Code Metal, Inc.

(5) 出展者数／登録来場者数

①出展者数（810社／団体）

エリア	出展者数
General Exhibits（通常出展）	422
ネクストジェネレーションパーク	155
AX（AI Transformation）パーク	33
パートナーズ&グローバルパーク	200

②海外出展状況（29カ国／地域・156社／団体）

アジア地域：	8カ国／102社
ヨーロッパ地域：	19カ国／29社
北米地域：	2カ国／25社

③登録来場者数（幕張メッセ）

	10月14日 （火）	10月15日 （水）	10月16日 （木）	10月17日 （金）	合計
来場者数	15,294	19,013	20,701	26,852	81,860
プレス	340	116	79	100	635
出展者数	4,840	4,304	3,821	3,424	16,389
登録来場者合計	20,474	23,433	24,601	30,376	98,884

2024年（JAPAN MOBILITY SHOW BizWeek 2024 併催）実績 登録来場者合計 112,014名

### 3-2. 「Inter BEE 2025」

(1) 開催内容

「コンテンツ」を中核として、コンテンツを「つくる（制作）」、「おくる（伝送）」、「うける（体験）」のすべてを網羅した、プロオーディオ、映像、放送、通信、プロライティング、配信関連のプロフェッショナルをはじめ映像・メディア業界の技術者、クリエイター、ステークホルダーが一堂に会する日本最大級のメディア総合イベントとして、幕張メッセ会場（11月19日（水）～21日（金））とオンライン会場（11月6日（月）～12月19日（金））にて開催した。

出展者数は1,079社/団体（うち海外：36カ国/地域から555社/団体）、開催期間中の登録来場者数は、幕張メッセ会場34,072名、オンライン会場16,397名だった。

## (2) 収支報告

本年は1,079社/団体が出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は、589,328,512円となった。それに対する事業費支出は509,894,095円、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替71,000,000円を加算した支出合計は580,894,095円となり、単年度収支差引は8,434,417円となった。前年度繰越金24,182,564円と本年の収支差引額の合計32,616,981円が、次年度繰越額となった。

## (3) 開催概要

- ①名称：Inter BEE 2025
- ②会期：2025年11月19日(水)～21日(金)
- ③場所：幕張メッセ

## (4) 出展部門

- ① プロオーディオ部門
- ② エンターテインメント/ライティング部門
- ③ 映像制作/放送関連機材部門
- ④ メディア・ソリューション部門

## (5) 特別企画

- ① INTER BEE FORUM  
基調講演および特別講演では、メディア・エンターテインメント業界のエキスパートが集まり、業界の最新技術動向や革新的なアイデアを提案する多彩なセッション、また特定テーマに焦点を当てた深いディスカッションまで、多彩なコンファレンスを展開した。
- ② INTER BEE CREATIVE  
進化する市場ニーズに応える最先端の映像制作ツールやサービスが集結。制作現場をより効率的に、そしてクリエイティブに進化させる最新のツールやサービス、および映像制作の未来をいち早く体験できる機会を提供した。
- ③ INTER BEE MEDIA Biz  
プラットフォームや国境を越えて展開する次世代のメディア戦略や広がるビジネスに触れ、その進化の先を見つめる人びとが集い、アイデアと出会える場を提供し、進化するメディア・コンテンツビジネスの動向やソリューションを発信した。
- ④ INTER BEE EXPERIENCE : X-Speaker  
国内最大・世界品質のSRスピーカーイベントとして、内外から多くの注目を集めるX-Speaker（SRスピーカー体験デモ）を実施し、13製品が競演した。

### INTER BEE EXPERIENCE : X-Headphone/X-Microphone

プロフェッショナルユースのヘッドフォンとマイクロフォンの様々な特長が実感でき、納得が行くまで試聴のでき、最新・高品質の音響ツールを存分に体験を提供した。

- ⑤ INTER BEE IGNITION × DCEXPO  
スポーツビジネスから新規事業開発、若手クリエイターやスタートアップの挑戦に至るまで、異なるフィールドで生まれる新しい共創の形を取り上げた。また、AIとコンテンツをテーマにしたセッションや展示も広く展開し、最前線動向を発信した。

⑥ INTER BEE DX × IP PAVILION

「IP」を基盤に、注目の「ソフトウェア化」を取り入れ「リモプロ」「クラウド化」「自動化」「セキュリティ」に対応する、未来に繋がる次世代のコンテンツ制作の効率化を提案した。

⑦ INTER BEE CINEMA

映画に特化したコミュニティとして、制作プロフェッショナルが集い最新の動向や技術を発信や、スクリーン拡大や視聴スタイルの多様化により進化を続ける映画市場において、演出・撮影・照明・録音・編集など制作技術とコンテンツ体験をリードする場を展開した。

⑧ INTER BEE AWARD 2025

Inter BEE で展開される様々な情報発信、ビジネス活動、また未来へ向けた創造と表現のための多様な活動の一翼を担うと共に、出展者の発信力がこれまで以上に高まり、より価値ある出展活動となることを目指し、本年2回目となるAWARDを実施し、応募された出展品の中から選考・表彰し内外に発表した。

⑨ 出展者セミナー

出展者が自社の製品、技術、サービスについて具体的な事例や応用例を交えながら、わかりやすく説明するセミナーを開催。製品や技術の特長を深く理解できるとともに、導入や活用の際に役立つ具体的な知識を提供。また、出展者と直接コミュニケーションを取る機会を作り、疑問点や関心のある内容についてその場で質問いただくことにより知識や理解を深めていただいた。

(5) 同時開催

① 第62回民放技術報告会（主催：一般社団法人 日本民間放送連盟）

11月19日（水）から21日（金）の3日間、幕張メッセ 国際会議場3階にて開催。

② 全映協フォーラム2025 in 幕張（主催：一般社団法人 全国地域映像団体協議会盟）

11月20日（木）幕張メッセ 国際会議場1階にて開催。

(6) 出展者数 1,079社/団体（うち海外36カ国/地域、555社）

展示部門	出展者数		
	日本	海外	合計
プロオーディオ	102	177	279
エンターテインメント/ライティング	76	56	132
映像制作/放送関連機材	268	305	573
メディア・ソリューション	67	28	95
合計	513	566	1,079

(7) 登録来場者数

① 幕張メッセ：34,072名

11月19日（水）	11月20日（木）	11月21日（金）	合計
12,260	11,386	10,426	34,072

2024年実績 登録来場者合計 33,853名

② オンライン：16,397名（10月3日（木）～12月13日（金））

#### 4. 国際化連携活動

当協会が運営する展示会の国際化の促進を図るため、海外関連展示会の主催団体等とプロモーション活動、プレスコンファレンス、出展誘致、来場者誘致などの相互協力を行うとともに、各展示会の情報収集活動を行った。

※対象海外展示会：CES、IFA、NAB、IBC、Viva Technology ほか

展示会名	トピックス/トレンド	連携	会期	開催場所
<b>■CEATEC</b>				
CES テクノロジー 見本市	開催のテーマ「Innovators show up」は、CEATEC が掲げる「あらゆるイノベーターが集う」と同意語。各会場の展示は、AI 関連が主流となり、今年の話題は Physical AI。	CEATEC の企画立案等のために展示会を視察。CTA (CES 主催者) と海外業界団体による Global Forum に参加し、情報交換や連携活動等を行った。	2026 年 1 月 4 日～9 日	ラスベガス アメリカ合衆国
IFA 家電・電子機器の展示会	あらゆるカテゴリーにおいて AI を取り込んだ製品が出展。とくに白物家電で、その実用価値が高まって、Smart Home が現実化している。	CEATEC の企画立案等のために展示会を視察。IFA CEO と面談し、情報交換や連携活動等を行った。	2025 年 9 月 5 日～9 日	ベルリン ドイツ
<b>■Inter BEE</b>				
NAB Show 放送業界向けの展示会	AI があらゆるシーンに登場。同様に、クラウド・サービスは不可欠のもので、あらゆる作業をそのクラウド上で行う世界に移行しつつある。	Inter BEE の企画立案等のために展示会を視察。NAB 会長との面談や、IBC が前日に企画したイベントに参加して、情報交換や連携活動等を行った。	2025 年 4 月 6 日～9 日	ラスベガス アメリカ合衆国
IBC 放送業界/エンターテインメント業界向けの展示会	コンテンツ制作を支える AI デバイスから AI ソリューション等が会場のいたる所で展示。IP 技術による映像制作/配信は既に定着し、大手の展示は、その差別化訴求がテーマ	Inter BEE の企画立案等のために展示会を視察。主催団体のマネジメントと面談し、情報交換や連携活動等を行った。	2025 年 9 月 12 日～16 日	アムステルダム オランダ
<b>■CEATEC/Inter BEE</b>				
Viva Technology スタートアップとテクノロジーの展示会	AI 関連が多く、その活用範囲はますます拡大。Startup 企業も AI に取り組む会社が多く、中近東やアフリカの参加も目立っていた。	Viva Technology の実務の責任者と面談し、CEATEC および Inter BEE への出展誘致活動へのサポートを依頼した。	2025 年 6 月 11 日～14 日	パリ フランス

以上